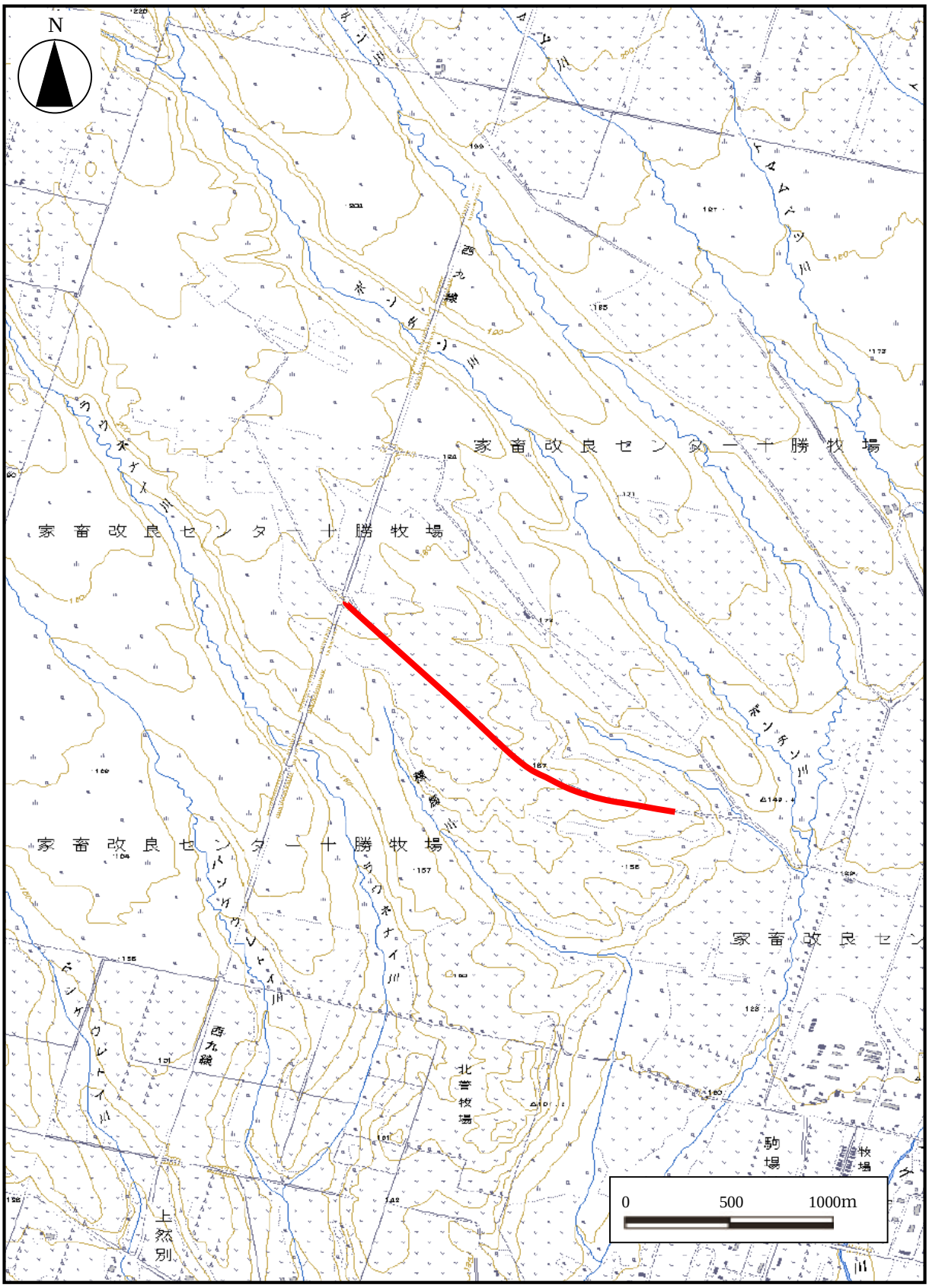

図6 ルートセンサス調査区間（ ：調査ルート）（十勝牧場採草地）

（３）耕作地（小麦畑）

調査は平成 25（2013）年５月 30、31 日と、補足調査を６月 21、22 日に実施した（表３）。

小麦畑に任意の調査地点を 82 箇所設定し、のべ 94 地点で調査を実施した（図７）。

音更町市街部の西側、５号道路に沿ってルートセンサス調査の麦Ｒ１ルートを設定した（図８）。

表3　調査実施内容と結果

調査地	調査ルート	調査地点数	調査距離（Km）	調査年月日	天候	風力	開始時間		終了時間	調査時間	ウズラ確認地点数	ウズラ確認羽数	備考
小麦畑	麦Ｒ１	12	2.2	2013年5月31日	曇	1	4:43	～	5:51	1:08	0	0	
				2013年6月21日	曇	3	8:23	～	9:20	0:57	0	0	
	―	82	―	2013年5月30日	曇時々雨	0～2	8:28	～	9:26	0:58	0	0	15/82地点を調査
				2013年5月31日	曇	1	8:27	～	9:05	0:38	0	0	6/82地点を調査
							8:26	～	9:30	1:04	0	0	8/82地点を調査
							6:23	～	9:06	2:43	0	0	42/82地点を調査
							5:58	～	7:05	1:07	0	0	11/82地点を調査
				2013年6月21日	曇	2	8:22	～	9:50	1:28	0	0	15/82地点を調査
				2013年6月22日	曇時々小雨	1～2	4:24	～	9:06	4:42	1	3	33/82地点を調査
							4:15	～	8:47	4:32	0	0	34/82地点を調査

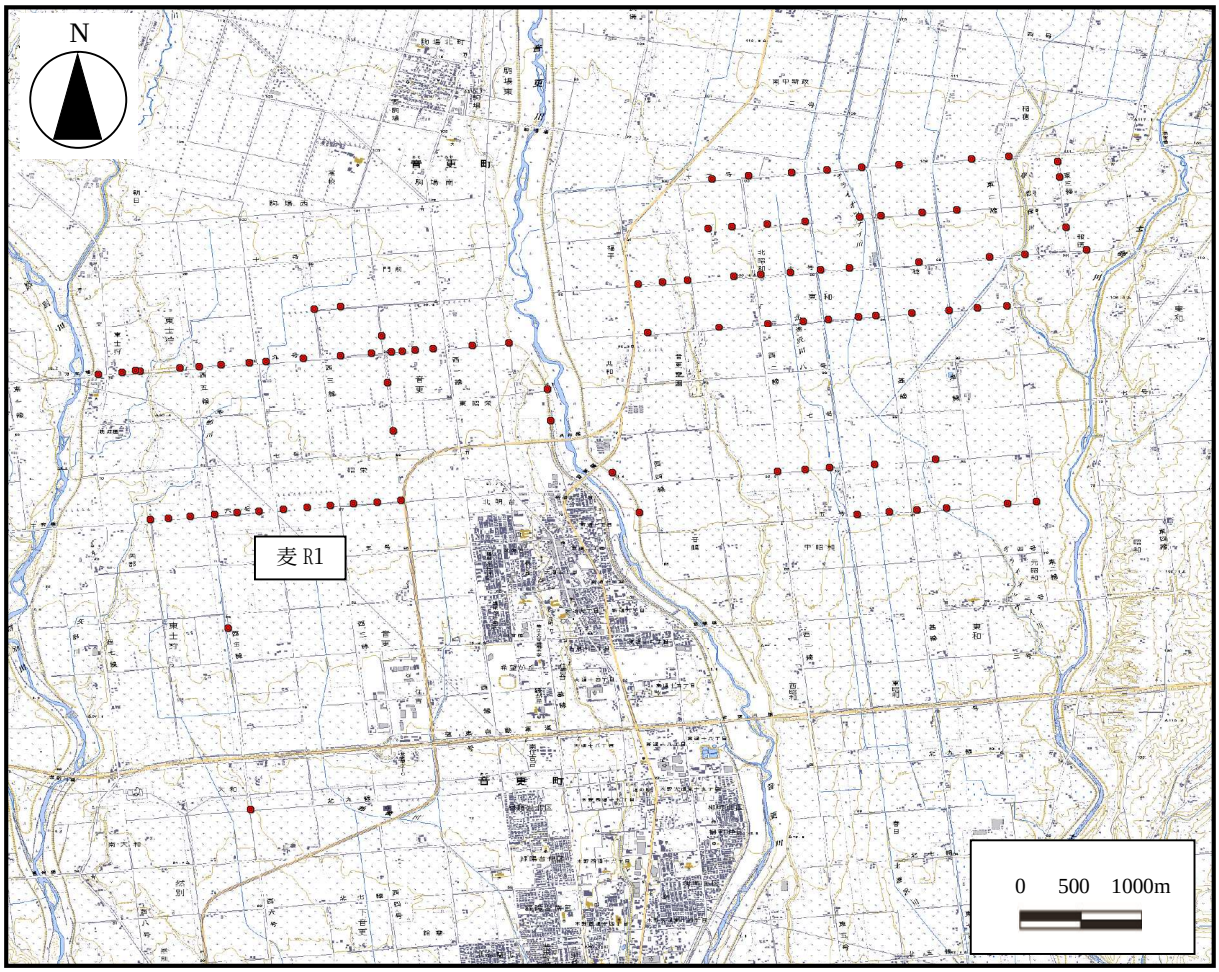

図７　プレイバック調査地点位置図（◎：調査地点）（耕作地（小麦畑））

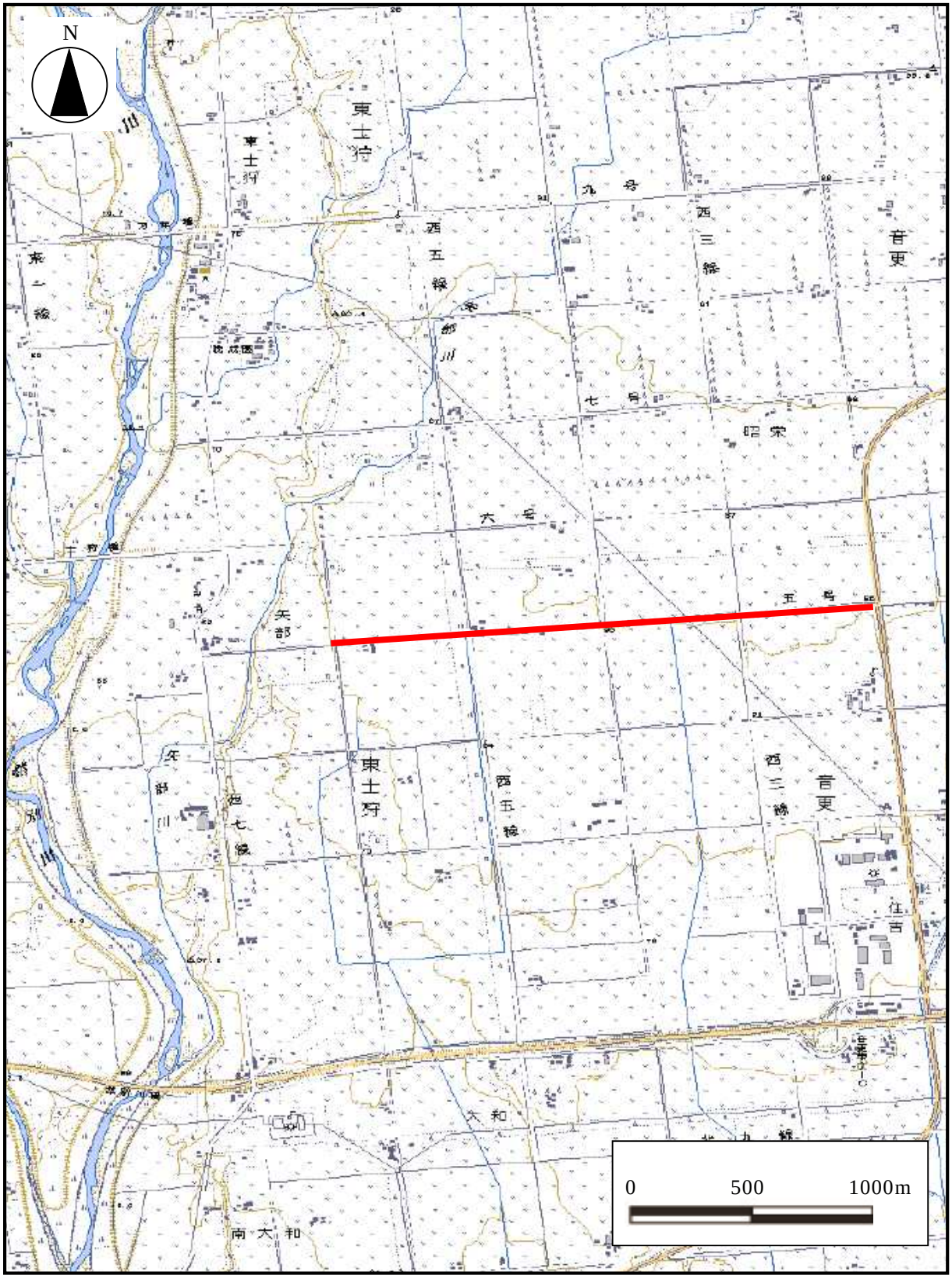

図8 ルートセンサス調査区間（ ：調査ルート）（耕作地（小麦畑））

４．調査結果

（１）石狩川流域

ルートセンサス調査ではウズラを確認することはできなかった。プレイバック調査では、２地点で各１羽を確認した（表１、図９）。確認位置の環境写真を写真１、写真２に示した。

右岸の最下流部となるＲ４の１地点で確認された個体は、鳴き声を流した音声再生装置に非常に良く誘引（雄、雌どちらの声にも反応）され、装置周辺に飛来し、さえずる行動が確認された。６月の調査で１羽が確認された右岸のＲ３の１地点は、H22 年度の調査でウズラ１羽を確認した地点の１つ下流側の地点であった。この個体は、調査地点に到着した時には既に囀っており、その後、流した鳴き声に反応して鳴き返すような行動は観察されなかった。

（２）十勝牧場採草地

ルートセンサス調査ではウズラを確認することはできなかった。プレイバック調査では、1 地点で１羽を確認した（表２、図 10）。

十勝牧場敷地内の苗場（牧草の種子を取るための牧草地）となる牧Ｒ４にて確認された個体は、鳴き声（雄、雌ともに）を流した音声再生装置に反応したものの、誘引はされなかった。

６月の調査では、ウズラは確認することはできなかった。ただし、ヤマシギ調査中（21 時頃）に採草地内にて、ウズラ２羽の囀る声を確認した。その後、プレイバック調査で使用している音声を流したものの、反応して鳴き返すような行動は観察されなかった。

（３）耕作地（小麦畑）

ルートセンサス調査ではウズラを確認することはできなかった。プレイバック調査では、1 地点で３羽を確認した（表３、図 11）

６月の調査では、音更町市街地より北東方向の１地点にてウズラ３羽を確認した。これらは、調査地点に到着した時には既に囀っており、その後、流した鳴き声に反応して鳴き返すような行動は観察されなかった。

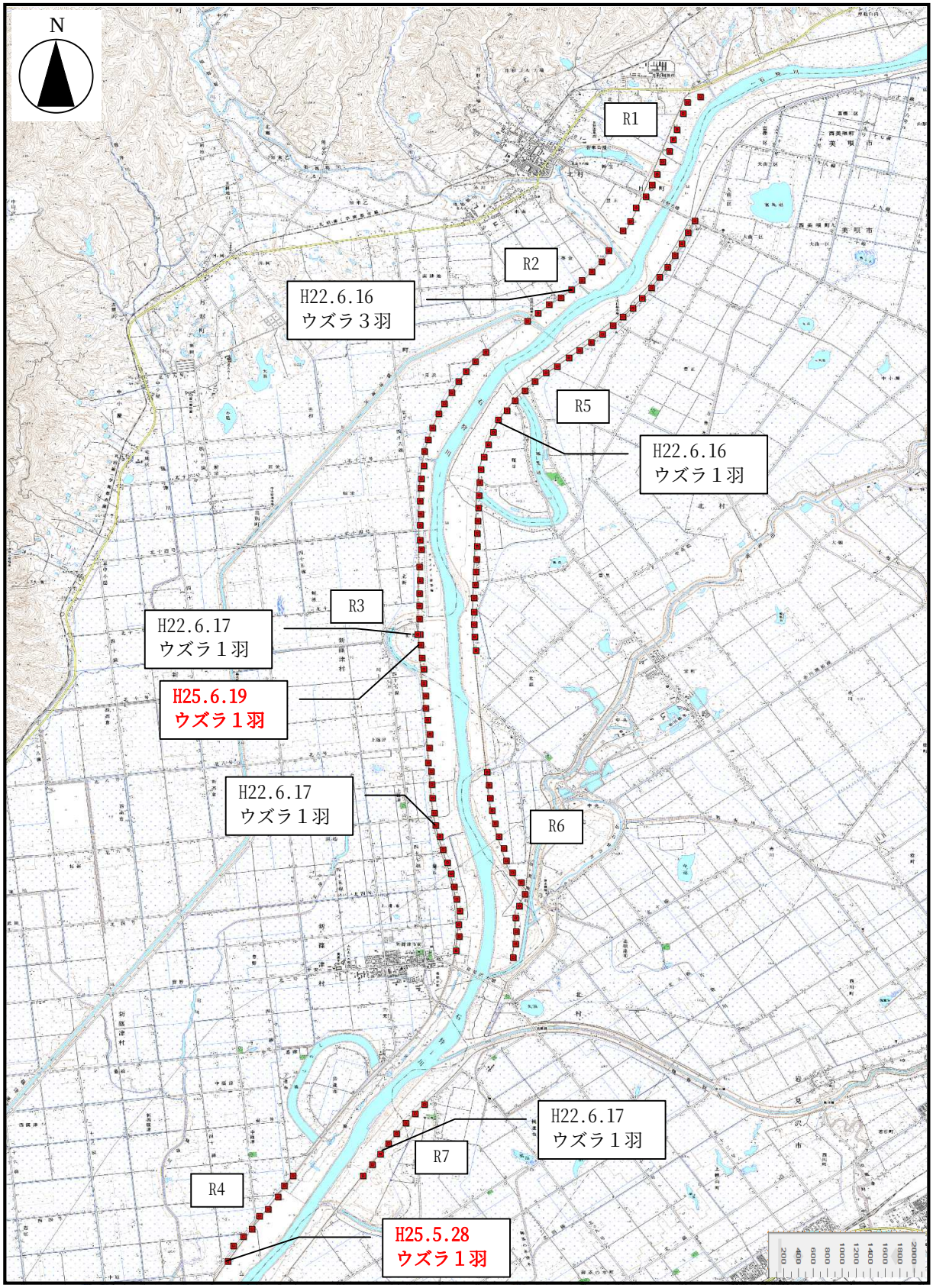

図9　ウズラ確認位置（石狩川流域河川敷）

写真1　ウズラ確認地点（H25.5.28 撮影）

写真2　ウズラ確認地点（H25.6.19 撮影）

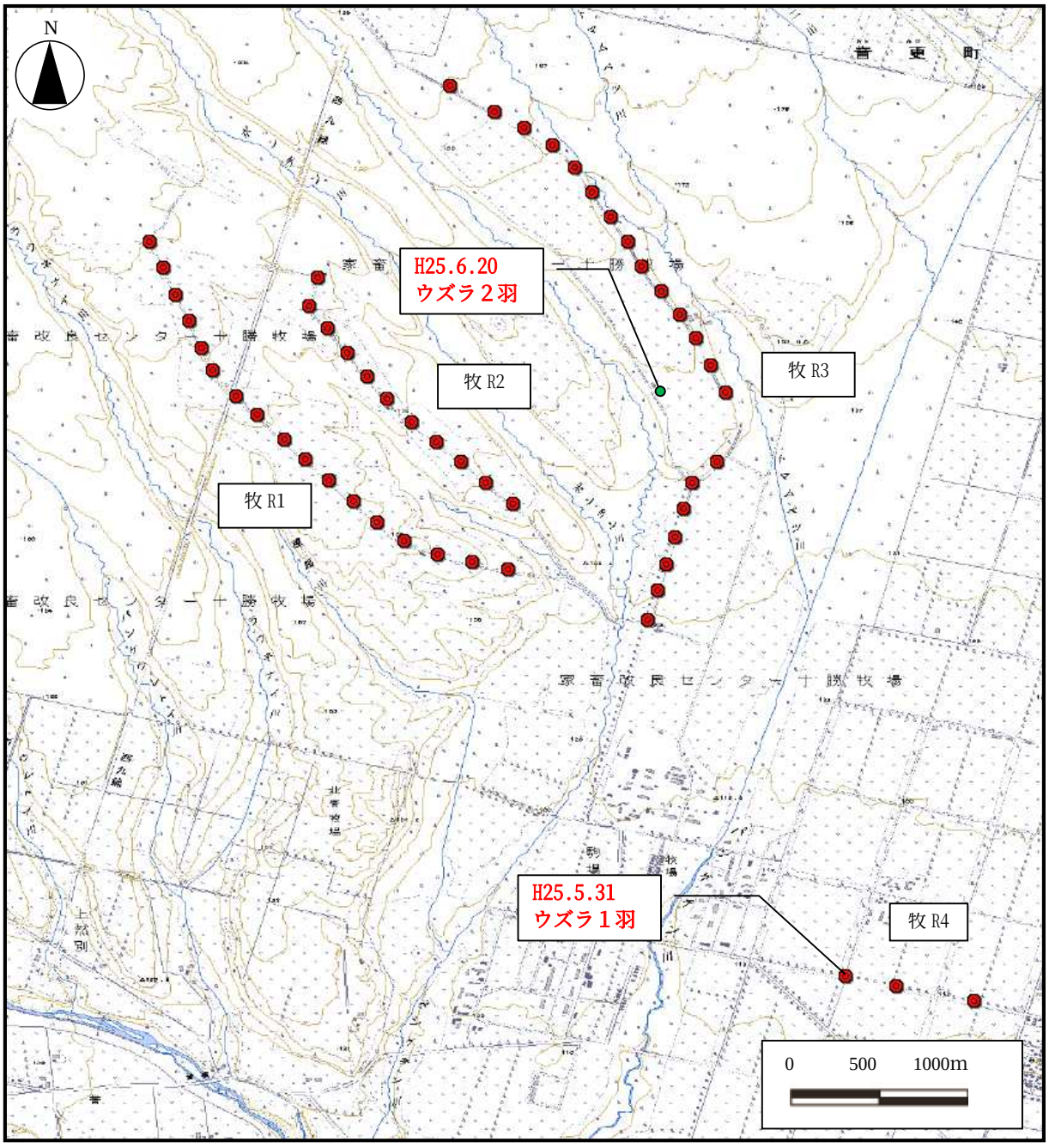

図 10　ウズラ確認位置（十勝牧場採草地）

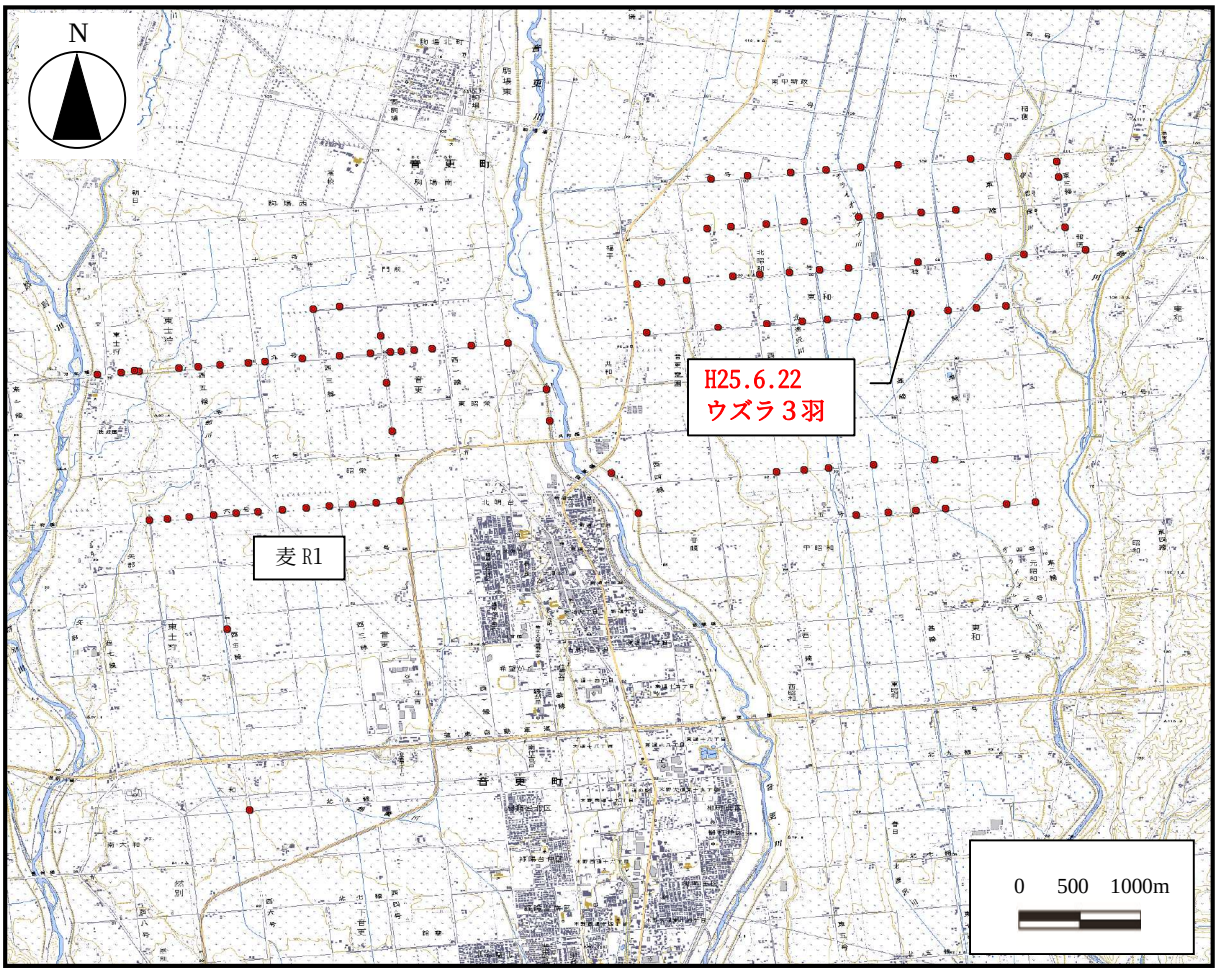

図 11　ウズラ確認位置（耕作地（小麦畑））

写真 3　ウズラ確認地点（H25.6.22 撮影）

５．まとめ

石狩川流域で実施したプレイバック調査では、平成 22 年度は５地点で７羽を確認したものの、今年度は１地点（平成 22 年度に確認された地点とは別地点）で１羽を確認したのみであった。さらに、補足として６月下旬に実施した調査でも、１地点（５月下旬の確認された地点とは別地点で平成 22 年度に確認された地点の一つ下流側の地点）で１羽を確認したのみであった。

十勝地方（音更町周辺）で実施したプレイバック調査では、牧草地の１地点で１羽を確認したのみで、小麦畑では確認できなかった。補足として６月下旬に実施した調査では、夜間実施したヤマシギ調査時に牧草地の１地点で２羽、小麦畑の１地点で３羽を確認した。

５月下旬の調査で確認された個体は、全て再生した音声に反応して鳴き返した声を確認したもので、石狩川の確認個体は、装置周辺に誘引されて飛来し、囀る行動も確認された。

一方、６月下旬の調査で確認された個体は、全て既に鳴いていた個体を確認したもので、流した音声に反応して鳴き返すといった反応は確認できなかった。

再生音声に誘引されるといった行動は平成 21 年度の調査時（６月上旬）に確認され、平成 22 年度の調査時（６月中旬）と今年度の補足調査時（６月下旬）には確認されなかった行動である。

これらの結果から北海道におけるプレイバック法の調査適期と河川敷以外の生息場所について以下の様に推測される。

- ５月下旬は、プレイバックへの反応は良好だが、確認された個体は少なかった。このため、まだ渡来している個体が少ない時期であることが示唆され、調査時期としてはやや早いと推測された。特に十勝地方ではその傾向が高いものと思われる。
- ６月下旬でも囀りは確認できるものの、プレイバックへの反応は鈍くなり、プレイバック法は調査手法として適さなくなる。
- 以上から、プレイバック調査に最適なのは、６月上旬から中旬までの 10 日～14 日間ほどの短い期間であると示唆された。
- 牧草の採草地や小麦畑の環境にも生息が確認され、調査適地の可能性が示唆された。ただし、時期によって人為的な改変を伴うこれらの環境において、プレイバック調査の最適期が河川敷と同様に６月上旬から中旬であるかは未確認である。